

2023年3月31日

関西学院大学 学長殿

所属：商学部
職名：教授
氏名：木山 実

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	「戦前期日本商社の経営史的研究」および「農商務省『海外実業練習生』制度の研究
研究実施場所	論文等の原稿執筆は主に自宅で行い、史料調査のために出張した。
研究期間	2022年4月1日 ～ 2023年3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要（2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

(1) 論文・原稿の執筆

商社史関係の論稿として、下記の3本の拙稿を執筆した。

- ①「商工省『貿易通信員』制度の成立と展開」関西学院大学『商学論究』第70巻第1・2号。
- ②「明治大正期『伊藤忠』の海外展開における要員」関西大学経済・政治研究所『研究双書』第178冊。
- ③（高千穂大学教授・大島久幸氏と共著）「明治・大正期三菱合資会社営業部における海外店舗人材形成」『三菱史料館論集』第24号（近刊予定）。

また農商務省「海外実業練習生」関係のものとしては、

- ④「創業期の珐瑯鉄器株式会社—技術者にも注目して—」『大阪経済大学日本経済史研究所開所90周年記念論文集』に投稿（2023年末頃刊行予定）。
- また出版社のミネルヴァ書房が発行するミネルヴァ通信『究』という小冊子の4月号から8月号まで、5回にわたって、「『名簿学』事始め—日本の近代を拓いた海外実業練習生—」と題する小文を連載した。5回にわたる連載原稿の執筆を通じて、約30年継続された海外実業練習生制度の成立過程、その性格変化、制度の運営実態、制度の終焉などの、今後の研究のアウトラインを描くことができたと考えている。

(2) 研究会への参加

- ①関西大学経済・政治研究所の産業セミナーでの研究報告

2022年6月25日開催の上記、産業セミナーにて、「関西系商社草創期の人材形成—伊藤忠商事と安宅商会のケース—」と題する研究報告を行った。伊藤忠、安宅商会の両社に共通していえることは、明治期に関西で小規模な商社としてスタート

した時点で、これら商社は高等商業学校ではなく、むしろ中等クラスの商業学校出身者への依存度が高かったということであろう。産業セミナーでは、このようなことを指摘した。

② 科研費研究会での研究報告

2022年12月17日に、私が研究代表者を勤める科研費（農商務省「海外実業練習生」制度の総合的研究）研究会をオンライン（Zoom）で行い、私が「創業期の珉瑯鉄器(株)会社」と題する研究報告を行った。

③ 名古屋の陶磁器産業史研究会への参加および研究報告

この研究会は2023年3月7日に開催されたもので、私も参加していた別の科研費研究「大正・昭和期における住宅関連産業の展開と「暮らし」の変容に関する総合的研究」（研究代表者：慶應義塾大学経済学部・中西聡教授）陶磁器班の、陶磁器業者の方々も交えた最終的な研究報告会である。この研究会では、大森一宏氏（駿河台大学教授）や今給黎佳菜氏（現在所属なし）による商社など流通関係者に関する研究報告もあり、商社史研究の一環としても意義深いものであった。私も「陶磁器業界における技術革新—トネル窯の導入に注目して—」と題する報告を行った。

(3) 史料閲覧・収集

本研究費によって実施した史料閲覧・収集は下記の3件である。

① 岡山県岡山市および倉敷市での調査

岡山県は戦前期日本の主要輸出品の一角を占めた花筵の主要産地であるが、このことを鑑みて、岡山県岡山市および倉敷市で史料閲覧と収集を行った。まず岡山市の岡山県立図書館で郷土史料を閲覧した。これは花筵関係を練習科目（研修内容）として海外渡航した農商務省の海外実業練習生が何人かいるので、彼らの渡航までの出身校を探る作業の一環として行ったものであり、岡山県立岡山第一商業学校や笠岡商業学校の卒業生名簿などを写真撮影した。

また戦前期に岡山県での花筵生産拡大に貢献した磯崎眠亀の別宅跡で花筵関係史料・物品を展示する倉敷市立磯崎眠亀記念館も訪問した。同記念館は近隣住民の自治会のような組織で運営されているようであり、私が訪問した際も、その自治会の方と思しき方から懇切丁寧な説明を受けることができた。これまで乏しかった花筵に関する知識が大きく深まったと考えている。

② 長崎県口之津港での調査

私は明治期に最初の総合商社となった三井物産を中心とする商社史を研究してきたものであるが、かねて長崎県口之津を訪問したいと考えていた。明治初期に創業した三井物産は明治政府から委託された三池炭鉱の石炭の対中国輸出で大きな利益を上げたが、福岡県大牟田から積み出された三池炭は有明海を小舟で島原半島先端にある口之津に運ばれ、そこで大型汽船に積み替えられ、中国に向けて大量に輸出された。三井物産にとって口之津港は三池炭積み出しの拠点として重要であったが、この口之津に歴史民俗資料館があるということで、この資料館を中心に、三井物産口之津出張所（のち支店）跡などを訪問した。資料館（分館）の展示物には三井物産関係のものも多く含まれており大変参考になった、かつての口之津港の繁栄ぶりを垣間見ることができた。

③ 新潟県佐渡島での調査

新潟県の佐渡島は三井物産初代社長として同社の成長・拡大に貢献した益田孝の生まれ故郷であり、また佐渡を象徴する佐渡金山は明治期に三菱合資会社に払い下げられたこともあって、財閥史研究の一環として訪問したかったところである。この佐渡島を他の商社史、労働史などを研究テーマとする大学教員たちとともに訪問した。

益田孝の生家跡とされる佐渡島・相川の地は、益田の父親が旧幕臣（地役人）であったことと関連して佐渡奉行所に近い場所にあったことを実感できたし、また佐渡金山跡は世界遺産登録を目指して展示物も充実化が図られているように見受けられたが、江戸時代以降、明治期にかけて往時の繁栄ぶりを偲ぶことができた。また佐渡市立中央図書館でも文献調査を行った。

④ 国立国会図書館デジタル・コレクションによる史料検索

2022年度に上記デジタル・コレクションは大幅な改変がみられたため、商社史研究にせよ、実業練習生の研究にせよ、相当多くの史料が検索できるようになり、格段に史料収集が進んだ。

上記の通り、史料収集、原稿執筆、研究会発表など相当に充実した研究活動を進めることができたと考えている。特別研究期間を付与していただいた大学当局に対し深甚なる感謝を申し上げたい。

以上

報告用紙②

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。